

様式1〔申し合わせ事項〕：【委員会、全協：共通様式】

〔氏名： 南部 豊 〕

東員町議会 総務建設常任委員会 行政視察研修報告書

令和4年 8月 2日・3日

視察先 近江八幡市

議員 8名 事務局 2名

テーマ

災害時の地下水を利用した代替飲料水確保について
湧水を利用した水路について
上記テーマについて研修を受けた。

はじめに

近江八幡市議会、山本英夫副議長の歓迎の挨拶を受け、担当課より説明を受けました。

総合政策部まちづくり協働課 木村課長補佐

1995年（平成7年）1月17日に発生した阪神・淡路大震災により、地域の避難所の確保が必須だとの認識から、コミュニティセンターと小学校の屋内練習場（体育館）と教室を避難施設として使用できるように、一体的に整備をした。平成20年度から金田小学校の教育設備整備と合わせ、金田コミュニティセンターの新設を設計施工のプロポーザル方式により一体的に事業を進めた。

また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災を教訓にコミュニティセンターを学区の防災拠点と位置付けて、防災機能の強化整備を行った。

*市の防災計画から考える必要な機能について

1. 避難想定人数は学区の約10%の1500人で、小学校ならびにコミュニティセンターに避難所を確保している。
2. 生活に必要な最低限の飲料水を確保している。 $(3\text{L}/\text{人}\cdot\text{日}\times 1500\text{人}\times 3\text{日}=13.500\text{L})$ 150Mの井戸（水量は毎時4t）平時も活用。
3. 生活に必要な最低限の雑用水（トイレ洗浄水）
 $30\text{L}/\text{人}\cdot\text{日}\times 1.500=45.000\text{L}/\text{日}$
4. 生活排水の一時貯留槽を設けている。
(90 m^3 の生活排水貯留槽を地下に埋設)
5. 居住のための電源の確保（105kvaの非常用発電機の配置）
6. 食事の調理への対応 センターの調理室ならび小学校の給食室に電磁調理器を設置。また、小学校の家庭科調理室にLPG用機器の設置。
7. コミュニティセンターが地域の防災指令室となるよう機能整備。
びわ湖 freeWi-Fi の設置、災害時用特設公衆電話の設置。
8. 初期対応用の非常食等の備蓄品については、全市的に順次整備している

様式1〔申し合わせ事項〕：【委員会、全協：共通様式】

〔氏名： 南部 豊 〕

現地視察1 金田コミュニティセンター、金田小学校にて現地視察説明をうけ、
(参考資料 金田コミュニティセンター・金田小学校配置図)

現地視察2 地下水の活用について

金剛寺町若宮湧水池

ここでは、

若宮湧水池は、災害時に飲み水として利用出来るかとの質問に対し、

- ・地価変動を伴わない災害時は利用可能
- ・停電時は（自主防災会保有）発電機による汲み上げ等を想定している。

水質検査状況はどのようなのですか。

- ・年1回調査機関に依頼して実施している。

検査結果は検査項目をすべて基準値以下で水道法水質基準値に適合。

日々に維持管理は。

- ・自治会各組単位の輪番制で整備（清掃、除草、メンテナンス作業）
- ・湧水広場、湧水池、遊歩道（毎週日曜日 朝1時間程度）

湧水は井戸水を汲み上げているのか。

- ・当初は自噴であったが、地下水低下のため現在は揚水ポンプ2台で
（飲用と水路への流出経路の水車動力用）

東員町の水道事業水質等は自信もありますが、災害時の被害状況では、水道事業がどうなるのかの心配はある。その時の対応の準備は平時のいま求められ必要であると痛感した研修でありました。

2日目

京都産業大学 法学部 教授 鷹嶋 英弘 先生

京都産業大学 法学部 ゼミ 生徒 さん

京都府警察本部 京都府警部補 藤本 純二 氏

テーマ 学生提案のトリックアートを用いた横断歩道について

平成29年4月、全交通事故に占める高齢運転者交通事故の割合が年々増加していることから、高齢運転者対策を重点とし、府内における高齢運転者の運転実態や自主返納に関する意識等を把握する目的で「高齢運転者」「自主返納者」「それらの家族」に対して実態調査アンケートを実施した。

様式1〔申し合わせ事項〕：【委員会、全協：共通様式】

〔氏名： 南部 豊 〕

アンケート結果から包括支援センターと連携した生活支援、自主返納パンフレットホームページの改修等、自主返納促進施策を中心として施策展開したもので、大学ゼミ対抗プロジェクト

「ポリス&カレッジ in KYOTO 2018」(平成30年11月24日発表会開催)

趣旨

学生の街「京都」の知の拠点である大学と連携し、各大学ゼミで「高齢運転者の交通事故防止対策」を研究テーマに設定の上、学生による調査、分析、研究等を実施し、発表会を開催して学生の柔軟な発想や専門分野を活かした実効性の高いアイデアを募るとともに、実現可能なアイデアについては実施を検討するもの。

主催

京都府警察本部、一般社団法人京都府トラック協会

ポリス&カレッジ in KYOTO 2020

テーマ：信号機のない横断歩道における歩行者優先対策

最優秀賞：京都産業大学 高畠ゼミ

学生さんたちが路面表示（トリックアート）に取り組むことになったきっかけは。

- ・一時停止について考えたり、取り締まりなどを意識しない人達に対する施策として考えた。テレビなどで取り上げられ知られるようになった。

路面表示をトリックアートにした結果、どのような結果があったか。

- ・実質的に平均速度の低下が85%下がった。

横断歩道は白色ですがその他の色はどうか。

- ・法令上の制限は白色と決まっている。法定外表示として白色にかぶらなければ他の色でも可能。（別紙参照）

現地視察（京都府亀岡市千代川町 千代川小学校正門前）

令和3年8月30日（月）千代川小学校の始業式の日に合わせて千代川小学校前横断歩道において、亀岡市主催による渡り初め式が開催された。

現地は、一年近くが経過しており、表示自体に汚れなどがついていたり、予算的にも80万円ぐらいと聞いていますが、いまいちの感じであったように思いました。

しかし、東員町でも場所によってはチャレンジすることができれば、また違った効果もでるのではと思えた研修でありました。